

木造大型パネル住宅の公開施工実験を開催

ウッドステーション(株)



公開施工実験に訪れた約1,000名の関係者に木造大型パネルの説明を行うウッドステーション(株)の塩地社長

大型パネルによる在来木造の工業化を推進するウッドステーション(株) (千葉県千葉市、塩地博文社長) は2018年12月15日と16日の二日間にわたり、早稲田大学西早稲田キャンパス校内にて、木造大型パネル住宅の公開施工実験を行った。

近年の住宅は高い性能が求められる一方で、熟練工の不足や高齢化が進行しており、建物の品質確保のためには木造建築のプレハブ化を進めることが喫緊の課題となっている。15日に行われた公開施工実験では同社が開発した木造大型パネル住宅の上棟までのプロセスを公開し、施工性(速度・精度)や品質の担保性、木材資源のトレーサビリティ(流通における追跡可能性)、耐震・気密・断熱性、国産材資源とのサプライチェーン、BIM活用による保守維持メンテナンスへの応用などを検証した。翌16日には上棟した実験住

宅の展示と並行して講演会やパネルディスカッションを開催したほか、千葉県旭市に移築するために展示が終了した実験住宅の解体・積込・移送が行われた。

約3時間で建て方作業が完了

12月15日の公開施工実験はキャンパスの中庭という狭小地で行われた。実験住宅は建築面積が52.88㎡(16坪)、延床面積が105.76㎡(32坪)、高さが7.23mの木造二階建ての一般的な住宅を想定したもの。木造大型パネルの施工については、クレーンによる部材の移動、専用ラックからの解梱、ほぞパイプへの落とし込み、ドリフトピンによる固定が基本的な工程となっている。なお、建て方作業に要した人工数は大工5名・クレーン1名・玉掛け2名となっている。